

～毎月10日は人権を考える日～

## 「子どもの人権を守る」

日本が1994年に批准した「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。

参照:「ユニセフ」のホームページより  
[https://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_rig.html](https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html)

この条約には、4つの原則があります。

### 「命を守られ成長できること」

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

### 「子どもにとって最もよいこと」

子どもに関することが行われる時は、「その子どもにとって最もよいこと」を第一に考えます。

### 「意見を表明し参加できること」

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

### 「差別のないこと」

すべての子どもは、子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

子どもの生活場所の基盤は、家庭です。その家庭が、「安心できる場所」でなければ「子どもにとって最もよいこと」にはなりません。子どもは何を望んでいるのでしょうか。

大切なことは、家族から愛されていると感じることではないかと思います。

子どもにものを買うことが、愛されていると感じることになるのでしょうか。何か違うような気がします・・・。

子どもの言うことを何でも聞いて叶えてあげることが、愛されていると感じることになるのでしょうか。これも何か違うような気がします・・・。

家族から大事にされていると実感することで愛されていると感じるのではないかと思います。「あなたは家族にとって大事な人なのだよ。」と語りかけても、子どもには届きにくいと思います。

どういうふうに届けばいいのでしょうか。その場面によって違うので難しいと思います。

例えばこんなのはどうでしょうか。午後7時になっても子どもが帰ってきません。心配でたまりません。やっと帰ってきました。その時の第一声？

その1「何しよったん。ちゃんと連絡して。」

その2「無事帰ってきてくれてありがとう。ほっとしたわ。」

連絡してよ。心配でどきどきしよったんよ。」

どちらも、子どものことを心配する親に変わりはありませんが、子どもにどう伝えるかで、子どもの受ける印象は違うと思います。子どもにどういう印象を与えるのか考えて伝える方が、子どもに本当の親の思いが伝わると思うのですが、いかがでしょうか。



